

平成28年度 事務事業評価表【B様式】（平成27年度実績）

1 事業の概要			
事業番号	167	事業名	区制70周年記念事業「文京区史」の発行
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画			
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	平成29年3月に区制施行70周年を迎えるにあたり、文京区誕生から今日に至るまでの歴史を後世に記録するとともに、70年の歩みを振りかえり、将来に向けた本区のさらなる発展の指針とします。また、区民の郷土に対する関心と愛着を深め、今後の魅力あるまちづくりに資することを目的として新たな『文京区史』を刊行します。		
手段	平成29年度の文京区史の発行にむけて、編さん作業を進めていきます。本年度は、区史本編及び写真集ともに目次構成とその内容について具体化を図り、執筆作業に着手します。誰もが手に取りたくなる親しみやすい区史とするため今後も検討を重ねていきます。		

2 取組状況	
25年度	
26年度	区史編さん委員会を計2回開催し、区史編さんの基本方針(案)等について協議しました。庁内資料の収集に当たっては、各担当課に基礎資料の調査と関連資料の探索等を依頼し、11月末までに資料収集を行いました。写真資料の収集に当たっては、写真募集のチラシを4,500枚作成し、町会及び区設掲示板への掲示や各種団体への配布、区報や区ホームページなど様々な媒体を活用して広く周知し、現在も収集継続中です。区史編さん業務支援委託の受託者をプロポーザル方式によって選定し、11月末に凸版印刷㈱情報コミュニケーション事業本部と契約締結を行いました。
27年度	区史編さん委員会を計2回開催し、写真集の構成(案)及び資料編の基本構成(案)等について協議しました。庁内資料の追加収集として、各担当課に改めて基礎資料の調査と関連資料の探索等を依頼し、5月末までに資料収集を行いました。写真資料の収集に当たっては、区報やCATV、区ホームページ等のツールを活用するとともに、個人や企業・団体などに積極的に声掛けを行う等、収集に努めました。また、本編の作成に向けて区職員等に対するヒアリングを実施するとともに、写真集の作成に向けては、老舗及び伝統工芸に関する対象者14名に取材を実施しました。

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A		5,501	3,361	11,412	11,156	34,534
特定財源		0	0	0	0	0
一般財源		5,501	3,361	11,412	11,156	34,534
所要人員 B		1.50	1.50	2.50	2.50	2.50
職員1人給与 C		6,814	6,766	6,944	6,789	6,913
人件費 D=B×C		10,221	10,149	17,360	16,973	17,283
総経費 E=A+D		15,722	13,510	28,772	28,129	51,817

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】		【成果】	区史本編の執筆に関して執筆者が現職の職員に対しヒアリングを実施しました。また、元区長、元助役に対するヒアリングも実施し、様々なお話を伺うことができました。写真資料の収集は、広報活動に努めるとともに積極的な声掛けを実践するなどして、昨年度の実績を大幅に超える約6倍の写真資料607点を収集しました。
【課題】		【課題】	約50年ぶりの編さんということもあり庁内資料で、古い資料については既に現存しないものもあります。足りない部分については現職の職員や職員OBから聞き取りを行い資料の補足を行う必要があります。写真資料は、様々な媒体を使って収集に努めていますが、写真集発行のためにはさらに素材を増やしていく必要があります。
達成度		26年度	27年度
			A
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①写真集に関しては、写真、内容ともに旧小石川区、旧本郷区のどちらかに偏ることがないように全体のバランスに配慮する必要がある。	
②平成26年7月に文京区史編さん委員会を設置し、委員には区民代表として町会や民生・児童委員などの方が就任されています。平成27年度は計2回の委員会を開催し案件に関する協議と様々なご意見をいただきました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	拡充	具体的な写真資料の収集と、資料提供に関し権利関係の確認を徹底します。29年3月に区史写真集の発行を記念して講演会及び上映会、パネル写真展を開催します。
27年6月末	拡充	② 当初予算の増減内訳 28年度は27年度と比較して23,122千円の増額（23,122＝34,534－11,412）内訳として、主な増額理由は、区史編さん業務支援委託の区史写真集印刷発行に伴う増の実績増（19,865千円）、新規分として区史写真集発行記念として実施する講演及び上映会などの開催に伴う増（2,545千円）、その他（712千円）
28年5月末	拡充	③ 所要人員の考え方 専任職員1人＋常勤1人＋非常勤0.5×1人＝2.5人 ④ 現状維持の理由

平成28年度 事務事業評価表【A様式】（平成27年度実績）

1 事業の概要			
事業番号	168	事業名	文の京ゆかりの文化人顕彰事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画			
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	平成24年度は森鷗外生誕150年記念事業、平成25年度は徳川慶喜没後100年記念事業を実施し、顕彰を行いました。それらを契機として、文京区に足跡を残した様々な分野の代表的文化人を顕彰し、本区の多様な文化的資源の継承、発掘及び情報発信を進めます。		
手段	顕彰の対象は、その年度が記念の年（生誕、没後等）にあたる文化人を中心に行います。文化資源担当室においては、朗読コンテスト、歴史講座（講演会）、史跡めぐり等の事業を企画、開催します。また鷗外記念館のミニ展示、文化事業係における企画展、観光担当が行う施設整備等とも連携して顕彰事業を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
朗読コンテスト応募者数	人		180	268	149%	180	169	94%	180
歴史講座申込者数	人		60	69	115%	60	165	275%	60
歴史講座満足度	%		80	91	114%	80	97	121%	80
史跡めぐり申込者数	人		30	118	393%	30	114	380%	30
史跡めぐり満足度	%		80	96	120%	80	91	114%	80

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A		2,082	2,078	2,092	2,291	2,253
特定財源		22	12	22	20	26
一般財源		2,060	2,066	2,070	2,271	2,227
所要人員 B		1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
職員1人給与 C		6,814	6,766	6,944	6,789	6,913
人件費 D=B×C		6,814	6,766	6,944	6,789	6,913
総経費 E=A+D		8,896	8,844	9,036	9,080	9,166

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	26年度は没後50年を迎える作家・佐藤春夫を中心に、講演会（友の会共催）、史跡めぐり、歴史講座を行いました。朗読コンテストでは記念の年を迎える作家5人の課題作を設定し、跡見学園女子大学に委託して実施しました。いずれも応募者数が多く、満足度が高い内容でした。また終焉の地に歌碑・記念室を開設する石川啄木についての企画展（文化事業係・文の京地域文化インタープリターとの協働）を開催しました。森鷗外記念館では佐藤春夫、石川啄木のミニ展示を行いました。これらの事業や佐藤春夫の紹介を掲載したリーフレットを発行・配布しました。		朗読コンテストでは、森鷗外・樋口一葉の作品を課題とし、跡見学園女子大学との連携事業として実施しました。没後50年を迎える作家・谷崎潤一郎については歴史講座、新収蔵資料によるミニ展示を行いました。鷗外記念館では木下杢太郎の展示を行いました。これらの事業や谷崎潤一郎の紹介・資料を掲載したリーフレットを作成・配布しました。
【課題】	今後も引き続きその年の主な顕彰者を選定した事業を実施します。顕彰する文化人の選定については、歴史的建造物（旧伊勢屋質店）活用事業等、他の事業も考慮し、関連づけた企画を工夫します。また歴史館友の会、大学等とも連携を強め、より魅力ある幅広い事業を展開していきます。		引き続き、記念の年を迎える文化人を中心に顕彰事業を企画します。また、文化資源担当室のみならず、文化事業係、観光担当の他係や、指定管理者である森鷗外記念館、（公財）文京アカデミー、更には大学や歴史館友の会とも連携して、魅力ある事業を実施していきます。
指標達成度		26年度	27年度
			A
			B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	森鷗外を始め、文の京ゆかりの文化人に対する区民の興味関心は高く、アンケートでも引き続き顕彰事業実施の要望が寄せられています。
②	史跡めぐりは、ふるさと歴史館友の会に委託して実施し、「文京まち案内」ボランティアガイドが企画、解説を行います。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	平成28年度は宮沢賢治、高村光太郎を中心に、朗読コンテスト、歴史講演会、史跡めぐり、リーフレット発行、パネル展示等の事業を行います。
		② 当初予算の増減内訳 歴史講演会報償費の増 94千円 歴史講演会資料借用謝礼新設による増 54千円 普通旅費の減 △3千円 見積によるリーフレット印刷経費の増 16千円
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員 3人×0.3=0.9 非常勤職員 0.5×1人×0.2=0.1 計1.0人
		④ 現状維持の理由 事業の応募者数、参加者数も多く、区民ニーズもあることから、引き続き同様の事業を実施します。
28年5月末	現状維持	

平成28年度 事務事業評価表【A様式】（平成27年度実績）

1 事業の概要			
事業番号	169	事業名	文化財行政の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画			
所 管	教育推進部		教育総務課
目的	区民の文化財についての関心を高め、郷土愛を醸成するため、区指定文化財の指定と周知及び埋蔵文化財の有効活用を図っていきます。		
手段	①文京区文化財保護審議会を開催し、区指定文化財の指定を推進するとともに、区報等にて広く周知します。 ②遺跡見学会や子ども考古学教室を開催し、埋蔵文化財について学び、体験する機会を提供します。また、発掘調査で出土された遺物等を区施設で展示し、埋蔵文化財を身近に感じられるような場を提供します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
区指定文化財の指定	件	3	1	1	100%	1	1	100%	1
子ども考古学教室の開催	回	—	1	2	200%	2	2	100%	2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	437	1,048	631	1,257	526	1,103
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	437	1,048	631	1,257	526	1,103
所要人員 B	0.45	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944	6,789	6,913
人件費 D=B×C	3,091	5,111	5,075	5,208	5,092	5,185
総経費 E=A+D	3,528	6,159	5,706	6,465	5,618	6,288

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	文京区文化財保護審議会を年4回開催し、区指定文化財を1件指定し、総計で81件となりました。また、新たに子ども考古学教室を2回開催し、小学生に埋蔵文化財について学ぶ場を提供しました。定員を上回る申し込みがあり、参加者からは概ね好評を得ることが出来ました。そのほか、区施設での埋蔵文化財の展示として、文京総合福祉センター建設工事に伴う発掘調査で発見された神田上水旧白堀跡を整備し、多くの区民に周知することが出来ました。	【成果】	区指定文化財を1件指定し、合計で82件となりました。さらに、切支丹屋敷で出土した人骨が、シドゥッティ神父の可能性が高いとの発見がありました。子ども考古学教室は、夏季に1回開催したほか、小石川植物園にて遺跡見学会を実施し、幅広い方に埋蔵文化財について学び、体験する機会が提供できました。
【課題】	区指定文化財を広く周知していくとともに、活用方法について検討していく必要があります。	【課題】	区内の文化財を活用し、区民が文化財を身近に感じられるように周知していく必要があります。また、子ども考古学教室については、開催時期等を検討する等、より良い学びの場となるように検討する必要があります。
指標達成度		26年度	27年度
			A
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①子ども考古学教室は、抽選で落選してしまうので、回数を増やしてほしい。（申込者より）	

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	拡充	① 事業の展開内容 区指定文化財の指定や子ども考古学教室を軸に、区施設での埋蔵文化財の展示等、文化財の周知・活用を展開していきます。 ② 当初予算の増減内訳 子ども考古学教室の開催回数の減 △154千円
27年6月末	拡充	③ 所要人員の考え方 区指定文化財の指定0.45人、子ども考古学教室の開催0.3人
28年5月末	改善・見直し	④ 現状維持の理由

平成28年度 事務事業評価表【A様式】（平成27年度実績）

1 事業の概要			
事業番号	170	事業名	アウトリーチ事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	身近な施設で優れた芸術文化に直接触れ、参加する機会を提供することにより、区民の芸術文化に対する理解や関心を深めます。		
手段	小・中学校や地域の文化施設など、身近な施設に演奏家等が出向き、ミニコンサートを開催します。また、コンサートの中で参加者が演奏に参加し、芸術文化に触れる機会を設けます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
アウトリーチ事業（小・中学校）開催回数	回	4	4	4	100%	4	4	100%	4
アウトリーチ事業（文化施設等）開催回数	回	2	2	2	100%	2	2	100%	2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	2,585	2,623	2,623	2,623	2,623	3,432
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,585	2,623	2,623	2,623	2,623	3,432
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944	6,789	6,913
人件費 D=B×C	1,030	1,022	1,015	1,042	1,018	1,037
総経費 E=A+D	3,615	3,645	3,638	3,665	3,641	4,469

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	平成25年度は、アウトリーチ事業として、提携団体である東京フィルハーモニー交響楽団及びシエナ・ウィンド・オーケストラによる「出前コンサート」を区立小中学校4校にて実施し、児童・生徒など887人に鑑賞いただきました。 また、ミュージックネット加入施設2か所でコミュニティコンサートを実施し、427人に鑑賞いただきました。	【成果】	平成26年度は、アウトリーチ事業として、提携団体である東京フィルハーモニー交響楽団及びシエナ・ウィンド・オーケストラによる「出前コンサート」を区立小中学校4校にて実施し、児童・生徒など1,163人に鑑賞いただきました。 （東京フィル：汐見小学校、小日向町小学校） （シエナ：茗台中学校、第九中学校） また、ミュージックネット加入施設2か所でコミュニティコンサートを実施し、222人に鑑賞いただきました。 （東洋文庫ミュージアム、日本サッカーミュージアム）
【課題】	小学校・中学校での「出前コンサート」について、児童・生徒だけでなく近隣住民の皆さんにも広く周知し、鑑賞いただける工夫を高めていく必要があります。 また、子どもから大人まで楽しみながら参加し、音楽や芸術に対する関心を高める「体験型」の企画をより一層充実させる必要があります。	【課題】	小学校、中学校など若年層を中心に事業を実施していますが、今後はその対象を広げ、さらに多くの区民が身近に文化芸術に触れることができる機会を提供し、区内で新たな文化が創出されるための支援を行う必要があります。
指標達成度		26年度	27年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①区内小中学校向けの事業では、児童、生徒より「身近に本物の音楽に触れることができよかった」、「今度はシビックホールで聴いてみたい」などの意見が多数寄せられました。	
②ミュージックネット施設でのコンサートでは、各施設の特長や実施の季節に合った企画とすることで、来場者だけでなく、実施した各施設からも高い満足のご意見をいただきました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	従来のアウトリーチ事業に加え、区内大学や専門学校と協働して「出前コンサート」等を実施します。
		② 当初予算の増減内訳
		コンサート回数の増 809千円増
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方
		3/12月×2人×30%=0.15人
28年5月末	拡充	④ 現状維持の理由

平成28年度 事務事業評価表【A様式】（平成27年度実績）

1 事業の概要			
事業番号	171	事業名	シビックホールでの文化芸術振興事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	優れた芸術鑑賞事業や区民参加型の事業を実施することにより、区民が文化芸術に触れ、体験できる場を提供します。また、事業を通じて芸術文化の振興を図ります。		
手段	事業協定を結ぶ芸術団体による芸術鑑賞事業や区民参加型事業をシビックホールにおいて実施します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
大ホール事業開催回数	回	4	4	4	100%	4	4	100%	4
小ホール事業開催回数	回	2	2	2	100%	2	2	100%	2
区民参加事業開催回数	回	2	2	2	100%	2	2	100%	2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	5,666	35,979	35,979	35,979	35,979	36,109
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	5,666	35,979	35,979	35,979	35,979	36,109
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944	6,789	6,913
人件費 D=B×C	1,030	1,022	1,015	1,042	1,018	1,037
総経費 E=A+D	6,696	37,001	36,994	37,021	36,997	37,146

4 評価				
事業の成果及び課題				
26年度	27年度	28年度		
【成果】 東京フィルハーモニー交響楽による公演を3回実施、来場者は延べ4,604人でした。シナ・ウインド・オケストラによる公演は1回実施し、来場者は1,231人でした。（大ホール） 東京フィルとシエナによる子ども向けコンサートを2事業4回実施。来場者は延べ1,185人（小ホール） 区民参加演劇は14人が受講、延べ83回の講習を経て成果を発表。公演は2回実施。来場者延べ498人（小ホール） 区民参加オペラは111人が受講、延べ52回の講習を経て成果を発表。来場者数1,292人（大ホール）	【成果】 東京フィルハーモニー交響楽による公演を3回実施、来場者は延べ4,789人でした。シナ・ウインド・オケストラによる公演は1回実施し、来場者は1,231人でした。（大ホール） 東京フィルとシエナによる子ども向けコンサートを2事業4回実施し、来場者は延べ1,169人でした。（小ホール） 区民参加演劇は8人が受講、延べ80回の講習を経て成果を発表。公演は2回実施し来場者は延べ291人でした。（小ホール） 区民参加オペラは138人が受講、延べ52回の講習を経て成果を発表。来場者数は1,472人でした。（大ホール）	【成果】 東京フィルによる公演を3回、また、シエナによる公演を1回実施し、来場者は延べ6,598人でした。（大ホール） 東京フィルとシエナによる子ども向けコンサートを2事業4回実施し、来場者は延べ1,022人でした。（小ホール） 区民参加オペラは118人が受講し、卒業公演の来場者は1,345人でした。（大ホール）		
【課題】 区民に「文京シビックホール」をより一層身近に感じていただくため、事業協定を結ぶ芸術団体を持つ強みを最大限に活かしたオリジナル企画を今後も継続することが必要です。 また、既存の広報手段に加え、ツイッターやフェイスブックなど、ソーシャルネットワークサービスを効果的に活用し、ホールへ足を運んでいただくための情報発信を一層強化する必要があります。	【課題】 事業協定を結ぶ芸術団体による事業では、シビックホールでの鑑賞事業に対し高い満足を声をいただいておりますが、芸術文化の振興を図るため、今後も質の高い事業を継続していくことが必要です。 また、広報について、区報や財団広報誌「スクエア」だけでなく、ホームページやツイッター、フェイスブック等、インターネットを活用した情報発信を一層強化していくことが必要です。	【課題】 平成27年度は、大ホール開館15周年を記念し、例年と比較し内容を充実させ、かつ低廉なチケット価格で事業を実施したため、より多くの満足を得ることができました。今後も引き続き質の高い事業を実施していく必要があります。		
指標達成度		26年度	27年度	28年度
		A	A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①事業協定を締結する団体を持つ強みを最大限に活かし、他ホールでは実現することができない「文京シビックホールオリジナル企画」を低廉な価格で実施することが求められています。今後もこのニーズを満たす事業を実施し、区民の皆様は「文京シビックホールがあっけよかったです」と実感していただける事業を継続して実施していきます。
②「区民参加オペラ」「区民参加演劇」では、舞台芸術の専門家による年間を通じた指導により、初心者の区民の方でも本格的なオペラや演劇に参加する機会を設けています。特に、演劇は、平成28年度を20年続いた活動の集大成と位置付け、講習・公演を実施します。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	東京フィルによるクラシック公演を3回、シエナによる吹奏楽公演を1回、東京フィルとシエナによる子ども向け公演を計4回、区民参加オペラ及び区民参加演劇を実施します。
27年6月末	現状維持	② 当初予算の増減内訳 指定管理料の見直しによる委託費の増 130千円
28年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人 ④ 現状維持の理由 今後も優れた芸術文化事業の充実に努めていきます。

平成28年度 事務事業評価表【A様式】（平成27年度実績）

1 事業の概要			
事業番号	172	事業名	文化祭／各種発表会／若手芸術家支援
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	受け継がれてきた伝統芸能を始めとする多様な文化の次世代への確実な継承と、後継者育成を目的に各種発表の場を提供し、区民の文化・芸術活動の支援と、普及・発展を図ります。併せて、若年層を中心とした新たな文化発信を目指し、ジャンルを超えた交流等を積極的に図ります。		
手段	現在の文化育成事業を適宜見直ししながら、継続的に実施するとともに、若年層をターゲットとした企画から運営までも自らが実施するイベントの開催を目指します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
全事業における若年層の参加者数	人	-	110	130	118%	150	185	123%	190
つどい・文化祭等参加者数	人	3,723	-			-			-
(参考) つどい等出演者	人	3,128	-			-			-
文化祭田品者(茶会参加者含む)	人	595	-			-			-

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	12,226	10,815	10,194	11,347	9,964	11,837
特定財源	879	1,105	827	1,115	817	1,007
一般財源	11,347	9,710	9,367	10,232	9,147	10,830
所要人員 B	1.65	1.70	2.70	2.70	2.70	2.20
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944	6,789	6,913
人件費 D=B×C	11,332	11,584	18,268	18,749	18,330	15,209
総経費 E=A+D	23,558	22,399	28,462	30,096	28,294	27,046

4 評価				
事業の成果及び課題				
26年度	27年度	28年度		
【成果】 文化・芸術の普及と発展を目的に、区内の各文化団体や大学等との協働により事業を実施しました。配布物の作成部数・配布箇所を精査したほか、大学生を中心とした若年層へ直接的に周知したことで、新たな参加者の確保、多世代による表現者・鑑賞者の交流の活性化にも繋がりました。	【成果】 区内大学のサークルに直接周知を行うなど、若年層に対する事業PRに力を入れた結果、10～20代の新たな参加者の獲得に繋がりました。鑑賞の機会については、未就学児から高齢者まで、多様な世代に対応した事業を展開することができました。	【成果】 既存の事業においても新たな分野からの参加を募ることで、若年層参加者の裾野拡大と、ジャンルを超えた交流が図られました。同時に、大学サークル等への継続的な情報発信により、若年層参加者の定着の兆しも見えてきました。また、各種事業のより一層の活性化に向けた整備、見直しも行いました。		
【課題】 文化芸術の確実な継承と発展のため、概ね40歳以下の参加者と次世代を担う人材の確保・育成が必要です。同時に、享受する側の育成も重要であることから、ライフステージに合わせた鑑賞・参加機会の充実と、他地域を含めた情報収集と発信に努める必要があります。	【課題】 大学機関等への継続的な事業周知・情報発信による参加者の裾野拡大と同時に、今後は若年層参加者の定着を図る必要があります。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、伝統文化の継承とそれを担う人材育成のため、区民の文化・芸術活動の支援をより一層充実させていく必要があります。	【課題】 今後は事業周知のみならず、文化の担い手となる若年層の育成にも注力し、新規参加者の増加へとつなげていく必要があります。そのための施策として、また、東京五輪開催を見据えた文化プログラムの一環として、伝統文化の継承普及のための啓発事業の具体化、実施を目指していきます。		
指標達成度		26年度	27年度	28年度
		A	A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①「伝統文化の次世代への確実な継承に向け、一層の若年層の参加を願っている」「つどい事業運営の担い手の高齢化が懸念される」「区民が日頃の練習の成果を発表する場であるため、参加者に喜んでもらえる事業展開を行ってほしい」（各関係団体）	
②つどい事業は各分野ごとに区民から構成される主管団体へ委託、文化祭は各団体の協賛を受け、円滑な運営となっています。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	各団体の自主的な運営を促進するとともに、区内大学を始め地域と連携することで、人材の発掘や新たな企画の発案、潜在的な参画希望者の確保に努めます。
27年6月末	改善・見直し	② 当初予算の増減内訳 シンビックコンサート、カレッジコンサート等の事業移管に伴う運営経費の皆減 △1,538千円 新規事業（ボスコ）の実施に伴う運営経費の皆増 872千円 ミューズマップ英語版作成等に伴う印刷製本費の増 1,125千円 ミューズフェスタ、会議費等運営経費の増 99千円 文化祭関連事務費の減 △68千円
28年5月末	拡充	③ 所要人員の考え方 常勤職員3人×0.4=1.2人 非常勤職員0.5人×2=1.0人
		④ 現状維持の理由